

第6学年 国語科学習指導案

日 時 平成25年10月18日(金)6校時
 児 童 男子17名 女子11名 計28名
 授業者 田村 直樹

- 1 単元名 ものの見方を広げよう
 教材名 『鳥獣戯画』を読む
 この絵、わたしはこう見る

2 単元を貫く言語活動とその特徴

身に付けたい力	言語活動設定の理由
◎目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすること。(読ウ) ◎事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。(書ウ)	① 単元を貫く言語活動 本単元を貫く言語活動として、自分の感じたことを文章に表す活動を位置づけた。『鳥獣戯画』を読むで自分の伝えたいことを表現する「書き方」を学び、学んだことを使って自分の選んだ絵の推薦書を書く。 ② 言語活動の特徴 自分が選んだ絵の推薦書を書き、校内に掲示してみんなに見てもらうことを意識することにより意欲化を図れる活動である。絵と文章を対照させながら表現している筆者の評価と、自分の感じたことを比較して、共通点や相違点について考え、自らの感じ方やもの見方を相手に伝わる表現で記述する活動である。
言語活動	③ 単元の目標の実現にどのように結びつくのか この言語活動を通して、自分の考えを明確にしながら読んだり、目的や意図に応じて見た絵の様子を簡単に書いたり詳しく書いたりすることができる力を身に付けることができるのではないかと考える。
★ゴールとしての言語活動	
★絵とその絵の推薦書を校舎内に掲示して「子ども美術館」をつくる。	

3 単元について

(1) 児童について

児童は、6年生の説明文「生き物はつながりの中に」において、筆者の意図をとらえて自分の考えを深める学習をしてきている。この学習では、文章に書かれてあることに対して、自分はどうに考えるかという学習をした。

しかし、筆者の表現に着目して文章を読み取り、自分の考えを広げたり深めたりする学習は初めてである。

そこで、筆者が何に着目して、それをどのように評価しているのかを区別しながら読み進めていきたい。

児童の実態を知るために事前テストを行った。(9月11日実施 対象児童28名)

	項目	できる	できない
①	筆者の感じたことを文章中から抜き出すことができる。	20	8
②	筆者の感じたことに対して自分なりの考えをもつことができる。	6	22
③	絵を見て、絵の一部に着目して自分の感じたことを表現することができる。	6	22

(2) 教材について

学習指導要領第5学年及び第6学年における「読むこと」の目標は、「目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。」である。本単元にかかわって読むことの重点は、指導事項ウ「目的に応じて、文章の内容を的確に抑えて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらかんたりにすること」である。また、「書くこと」の目標は、「目的や意図に応じ、考えたことなどを文章全体の構成の効果を考え文章に書く能力を身に付けさせるとともに、適切に書こうとする態度を育てる。」である。本単元にかかわって書くことの重点は、指導事項ウ「事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること」である。

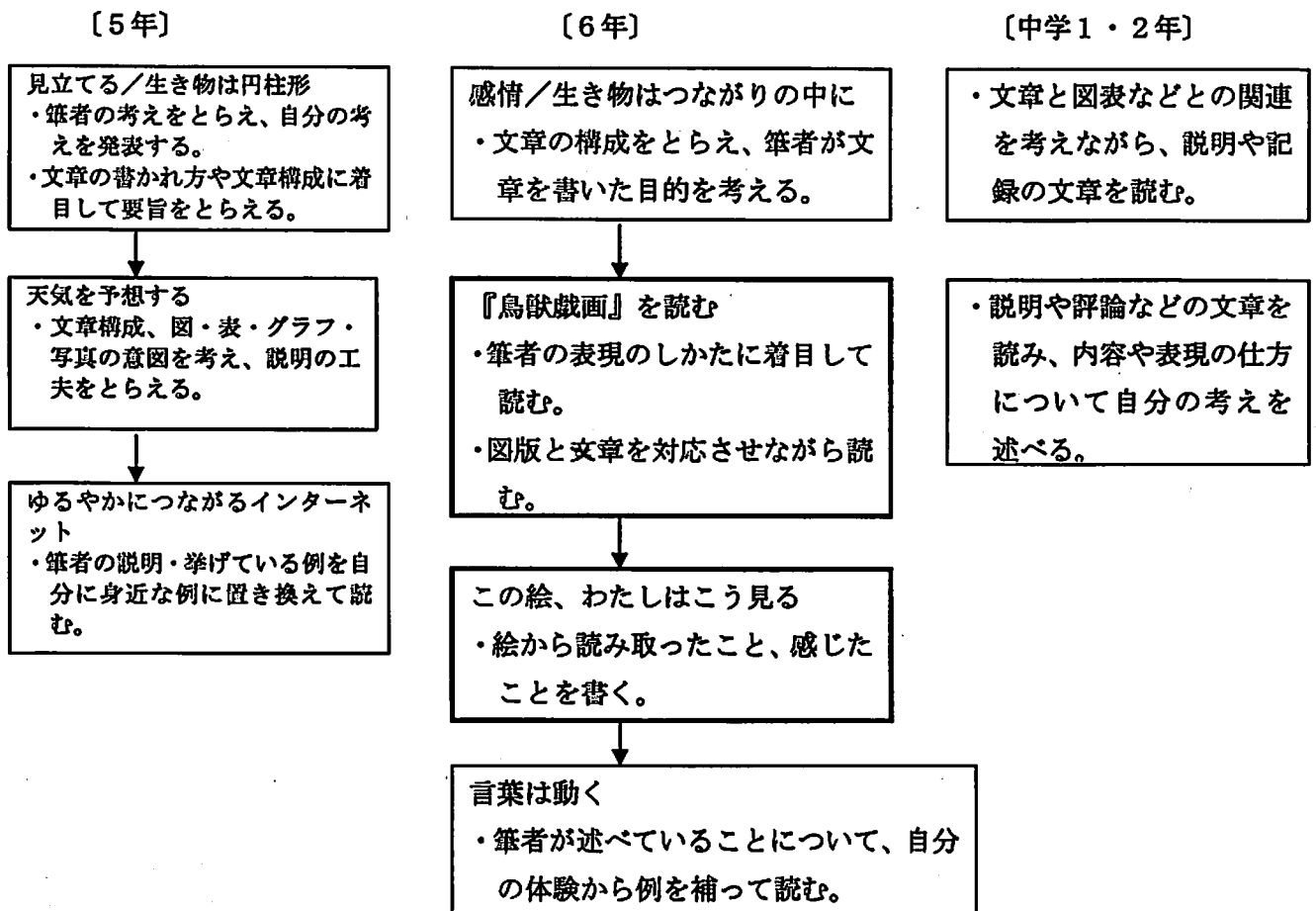
本単元では、前半は『鳥獣戯画』を読むことで筆者の書きぶりやものの見方を学ぶ。この教材では、アニメーション映画のプロのものを見方を知ることができるとともに、アニメーションのルーツともいえる「鳥獣戯画」などの絵巻物が伝統文化として深く息づいてきたものであることを知ることができる。また、日本の伝統文化の深さにも触れることになる。今日、世界的に評価の高い日本のアニメーションも一朝にして成ったものではないことを知ることの意義は大きい。「鳥獣戯画」は、漫画のようなユーモラスな作品なので、筆者とはまた違う児童の解釈・評価が予想される教材である。また、後半の「この絵、わたしはこう見る」の教材では、名画をたくさん目にする事となる。その絵画の成立背景や芸術理念を心得ていなくても、自分なりの感じ方で何かを感じ、想像の世界をふくらませるきっかけとなる教材といえる。

(3) 指導について

本単元の指導にあたって、次のような点に留意していきたい。

- ① 絵の推薦書に興味・関心をもたせるために、「ゴールの言語活動」のモデル文を提示する。
- ② 絵と文章を照らし合わせて読み、筆者の評価とその対象をとらえさせ、筆者の評価の仕方について学ばせる。
- ③ 筆者の見方を読者に伝えるための、表現や構成の工夫をとらえさせ、筆者の表現や構成の工夫について学ばせる。
- ④ 文章を読んで広がったものを見方を交流させ、さらにももの見方を広げることができるようにさせる。
- ⑤ 視点をよりどころとしながら分析的に優れた絵画に向き合わせ、自分が名画のどの点に何を感じ、どのように意味づけたのかを意識させる。
- ⑥ 感じたこと・読み取ったことをもとにしながら、自らのもの見方を、相手に伝わるような表現で記述させる。
- ⑦ 指導計画に則して、評価規準を明示しながら身に付いた力を実感させ、意欲化を図る。

4 単元の位置付け



5 単元の目標

【関心・意欲・態度】

- ・絵に興味をもち、自分なりに絵から読み取ったことを伝えようとしている。

【書くこと】

- ・読み取ったことと感じたことを書き分けることができる。(書ウ)

【読むこと】

- ・筆者がどのようなことを根拠として考えを述べているのかをとらえることができる。(読ウ)
- ・筆者の意図と表現の工夫との関連について考えることができる。(読ウ)

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

- ・文章の中での語句と語句との関係を理解することができる。(伝国(1)イ(オ))

6 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> ・絵に興味をもち、自分なりに絵から読み取ったことを伝えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・優れた文章から読み取ったことや感じたことの書き方を学んだり、自分自身に対する問いを立てたりして読み取ったことと感じたことを書き分けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者が絵の何に着目してどのように評価しているかをとらえている。 ・書き出しや文末の工夫から筆者の意図について考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文末表現や助詞の使い方などの語句に着目して読み、語句と語句との関係を理解している。

7 単元の指導計画 (全9時間)

次	時	指導目標	ゴールに向かうための言語活動	評価規準 (*評価方法)
第1次	1	<ul style="list-style-type: none"> 『鳥獣戯画』を読む」を読み、感想を發表することができる。 推薦書のモデルを見て、学習課題を確認し、学習の見通しをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 全文を音読し、絵について自分の感じたことや、筆者のものの見方や感じ方について感想を發表する。 推薦書のモデルを読み、どの絵についての推薦をしているのか選ぶ。 	<p>【関】自分の感じ方と、筆者のものの見方や感じ方について感想を述べている。(*発言)</p>
	2	<ul style="list-style-type: none"> 筆者が絵について、どのような感じ方や評価をしているか、絵と文章を照らし合わせながら読み取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 筆者は絵全体の中で、どの部分を取り上げているかを探す。 取り上げた対象の何に着目しているかを文章から取り出す。 筆者が絵について評価している部分を探す。 筆者の評価に対して、自分ならどう思うかを書き込む。 	<p>【読】筆者が絵について評価している部分を取り出し、自分ならどう思うかを書き込んでいる。(*発言・ノート)</p>
第2次	3	<ul style="list-style-type: none"> 筆者が絵巻物についてどのような評価をしているかを読み取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 筆者が絵巻物について評価している部分を取り出す。 筆者の評価に対して、自分ならどう思うかを書き込む。 	<p>【読】筆者が絵巻物について評価している部分を取り出し、自分ならどう思うかを書き込んでいる。(*発言・ノート)</p>
	4	<ul style="list-style-type: none"> 筆者が考えを効果的に伝えるための表現の工夫について自分の考えを書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 筆者の書き出しにはどのような効果があるかを考え、自分の考えを書く。 名詞で止めたり、言い切りにしたりする文末には、どのような効果があるかを普通の言い方と比べて考え、自分の考えを書く。 筆者が絵を評価する前に問いを立てて、読み取ったことや感じたことを書いた意図を話し合う。 	<p>【読】筆者の表現の工夫について、その効果について自分の考えを書いている。 (*ノート)</p>
	5			
第3次	6 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> 絵を見て、絵に興味をもつことができる。 絵を選び、絵から読み取ったこと、感じたことを書き出すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 二つの作品から絵を選ぶ。 「何が」「どのように」描かれているかを書くために「問い」を立てる。 「問い」から「絵から読み取ったこと」「感じたこと」を考えて書く。 	<p>【関】絵を見て、興味をもって絵を選ぼうとしている。 (*発言)</p> <p>【書】問いを立て、絵から読み取ったこと・感じたことを書いている。(*発言・ノート)</p>

7	<ul style="list-style-type: none"> ・表現の効果や工夫を考えて、自分の選んだ絵の推薦書を書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵から感じたことの中から書くことを決める。 ・読み取ったことと感じたことを分けて推薦書を書く。 ・書いたものを読み合い、表現の仕方について助言し合う。 	【書】事実と感想を分けて推薦書を書いている。（*ノート）
8	<ul style="list-style-type: none"> ・「子ども美術館」をつくるための絵を一つ選ぶ。 ・表現の効果や工夫を考えて、自分の選んだ絵の推薦書を書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いくつかの絵から一つ選ぶ。 ・読み取ったことと感じたことを分けて推薦書を書く。 ・前時に助言されたことを基にして表現の効果を考えながら推薦書を書く。 	【書】今まで学習したことを基に、表現の効果や工夫を考えて、自分の選んだ絵の推薦書を書いている。（*書いたもの）
9	<ul style="list-style-type: none"> ・書いたものを読み合い、ものの見方や表現方法を広げることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書いたものを読み合い、絵の評価の仕方や表現の仕方に着目して助言し合う。 	【書】書いたものを読み合い、絵の評価の仕方や表現の仕方に着目して助言し、ものの見方や表現方法を広げている。（*発言・書いたもの）

8 本時の指導

(1) 目標

- ・絵から読み取ったこと、感じたことを書き出すことができる。

(2) 提案したいこと

- ・問いを立てることで、絵から読み取ったことや感じたことを書き出すことができるのではないかな。

(3) 展開

段階	学習内容・活動 (○主な発問、指示 ・予想される児童の反応)	指導上の留意点 (*評価 △支援を要する児童への手だて)
つかむ	<p>1 絵を選ぶ。</p> <p>○二つの作品から推薦してみたい作品を選びなさい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・理由をつけて隣の人に、選んだ絵を宣言させる。
4分	<p>2 本時の学習課題を確認する。</p> <p>○問いを立てるとどんないいことがあるのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の感じたことを書きやすい。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>問いを立てて、絵から読み取ったこと・感じたことを書こう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・『鳥獣戯画』を読むで、筆者が問いを立てて絵から感じたこと・読み取ったことを書いていたことを想起させて課題につなげる。 ・推薦書を書くためには自分の感じたことを書き溜めることが必要である。その自分の感じたことを自分の中から出させるために、様々な観点から問いを立てることを全員で共有する。

		<ul style="list-style-type: none"> ・本時は読み取ったこと・感じたことを書く学習であることを確認する。
<p>ふかめる</p>	<p>3 問い・読み取ったこと・感じたことを考える見通しをもつ。</p> <p>○高畑さんが鳥獣戯画を評価したときの問いを確認しよう。</p> <p>○どのような観点で問いを立てると良いですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・形 ・色 ・線 ・模様 <p>4 問いを立てる。</p> <p>○何に着目しているか、観点をはっきりさせて問いを立てよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どうしてこんなポーズをしているのだろう。 ・右の鬼が布を持っている。いったいこれはなんだろう。 <p>5 問いに対して読み取ったこと・感じたことを書く。</p> <p>○高畑さんはどのような文末で読み取ったことを書いていたか確認しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・～がわかるね。 <p>○高畑さんはどのような文末で感じたことを書いていたか確認しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・～ではないか。 <p>○今考えた問いに対して読み取ったこと・感じたことを書いてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目の動きから左手と左足を誰かに向けているようだ。きっと誰かに戦いを挑んでいるのではないか。 ・大きな布が風を受けて大きくふくらんでいることがわかる。きっと布に風を集めてその風を何かに利用するのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高畑さんが『鳥獣戯画』を読むで「蛙の口から線が出ているのに気づいたかな。いったいこれはなんだろう。」「目と口の描き方で、蛙の絵には、投げ飛ばしたとたんの激しい気合がこもっていることがわかるね。」「きっとこれは、～気合の声なのではないか。」と問い・読み取ったこと・感じたことを書いていたことを確認する。 ・高畑さんが問いを立てるときに何に着目していたか観点をはっきりさせていたこと・読み取るときには「何が」「どのように」書かれているかを書くこと・その上で自分の感じたことを書くことを確認する。 ・全員で一つの観点で問いを立ててみる。それを参考に一人ひとりが問いを立ててみる。 ・観点ははっきりさせて問いを立てられているか確認する。 ・高畑さんが問いに対して読み取ったこと・感じたことを書くときにどのような言葉を使っていたかを想起させてから書かせる。 ・他にどのような文末があるか考える。 <p>△「○○かもしれない」「○○だろう」など様々な文末を提示したり、教師や教科書のモデル文を参考にしたりしながら書かせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>*問いを立て、絵から読み取ったことや感じたことを書いている。(ノート)</p> </div>

38分	<p>5 グループで交流する。</p> <p>○グループで交流します。自分の読み取ったときに使った言葉が絵とぴったり合うかどうか検討しましょう。</p> <p>6 問いと答えを一つの流れにまとめる。</p> <p>○今日考えた問いと読み取ったこと・感じたことをまとめて書きます。高畑さんが書いたようにまとめてみよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・4人グループで交流する。 ・感じたことは人によって様々な感じ方が考えられるので、読み取ったことに使った言葉が妥当かどうかを検討する。 ・自分の考えた問いと読み取ったこと・感じたことを一つ選んで、次の推薦書を書くときに役立てられるようにまとめる。
まとめる 3分	<p>7 今日の学習をふり返る。</p> <p>○今日は問いを考えて、絵を見て読み取ったこと・感じたことを書くことができましたか。</p> <p>○どうすれば読み取ったこと。感じたことを書くことができますか。</p> <p>○今日学んだことは何ですか。</p> <p>8 次時の学習内容を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・挙手をさせてしっかり書けたことを評価し、子どもたちに満足感をもたせる。 ・読み取ったこと・感じたことを書くための方法を確認する。 ・今日の学習の自己評価をさせ、満足感をもたせる。

(4) 板書計画

この絵、わたしはこう見る

課題 問いを立てて、絵から読み取ったこと・感じたことを書こう。

〈高畑さんの問い〉

蛙の口から 線が 出ている。いったいこれはなんだろう。

〈視点〉

・形

・色

・線

・模様

〈問い〉

① 右の鬼が布を持っている。いったいこれはなんだろう。

②

〈読み取ったこと・感じたこと〉

① 大きな布が風を受けて大きくふくらんでいることがわかる。きつと布に風を集めてその風を何かに利用するのではないか。

②

右の鬼が布を持っている。いったいこれはなんだろう。大きな布が風を受けて大きくふくらんでいることがわかるね。きつと布に風を集めてその風を何かに利用するのではないか。

言語活動設計図

単元名 ものの見方を広げよう
 教材名 『鳥獣戯画』を読む「この絵、わたしはこう見る」

第三次				第二次			第一次	次時
9	8	7	6	5 4	3	2	1	
<ul style="list-style-type: none"> 書いたものを読み合い、ものの方や表現方法を広げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 絵を一つ選ぶ。 表現の効果や工夫を考えて、自分の選んだ絵の推薦書を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 表現の効果や工夫を考えて、自分の選んだ絵の推薦書を書く練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 絵から読み取ったこと、感じたことを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 筆者が考えを効果的に伝えるための表現の工夫について自分の考えを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 筆者が絵巻物についてどのような評価をしているかを読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> 絵と文章を照らし合わせて筆者の感じ方や評価の仕方を読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習の見通しをもつ。 	身に付けたい力を支える要素
<ul style="list-style-type: none"> 表現の効果を考えながら推薦書を書く。 書いたものを読み合い、助言し合う。 		ゴールとしての言語活動 ★絵とその絵の推薦書を校内に掲示して「子ども美術館」を作る。		<ul style="list-style-type: none"> 筆者が絵を評価する前に問いを立てた意図を話し合う。 「何が」「どのように」かかれているかを書くために「問い」を立てる。 「問い」から読み取ったこと・感じたことを考えて書く。 読み取ったことと感じたことを分けて推薦書を書く。 書いたものを読み合い、表現の仕方について助言し合う。 			<ul style="list-style-type: none"> 『鳥獣戯画』を読む」を読み、感想を発表する。 推薦書のモデル文を読み、ゴールまでの見通しをもつ。 	ゴールに向かうための言語活動
<ul style="list-style-type: none"> 筆者が絵全体の中でどの部分を取り上げているかを探す。 取り上げた対称の何に着目しているかを文章から取り出し、青の蛍光ペンでラインを引く。 筆者が絵について評価している部分を探し、赤の蛍光ペンでラインを引く。 絵に対する筆者の評価に対して、自分ならどう思うかを教科書に書き込む。 		<ul style="list-style-type: none"> 筆者が絵巻物について評価している部分を探し、赤の蛍光ペンでラインを引く。 絵巻物に対する筆者の評価に対して、自分ならどう思うかを教科書に書き込む。 筆者の書き出しにはどのような効果があるかを考え、自分の考えを書く。 体言止めにする文末には、どのような効果があるかを普通の言い方と比べる。 			<ul style="list-style-type: none"> 筆者が絵を評価する前に問いを立てた意図を話し合う。 「何が」「どのように」かかれているかを書くために「問い」を立てる。 「問い」から読み取ったこと・感じたことを考えて書く。 読み取ったことと感じたことを分けて推薦書を書く。 書いたものを読み合い、表現の仕方について助言し合う。 			ゴールに向かうための言語活動